

勝田都市計画局長殿

平成 15 年 12 月 15 日

P I 外環沿線協議会協議員

濱本 勇三 渡邊 俊明

須山 直哉 新 守一

栗林 勝彦 宿沢 藤子

橋本 妙子

### 03.12.10 都議会における都市計画局長の発言に対する質問書

平成 15 年 12 月 10 日開催された東京都議会第 4 回定例会の本会議において東京都の勝田都市計画局長が行った発言内容について、質問します。

石原国土交通相は「外環道は大深度地下方式で建設し、早期完成を優先させて I C (イタチンジ) を設置しない方針」を公表しましたが、勝田都市計画局長は「 I C が無ければ都内を通過するだけで都民が利用できず、既存道路の交通量削減や環境改善の効果も発揮できない」として I C は必要不可欠と答弁。また「設置に当たっては都民の利便性確保や時間短縮効果などから検討し、地域の意見も聞く」と述べた、と報じられました。

東京都に質問します。

これまで、P I 協議会で東京都の協議員がこのような発言をされたことはなく、 I C 必要との根拠となるデ - タも示したことはありません。勝田局長の発言の社会工学的根拠は何か、今後の協議会で明らかにされたいと思います。

あわせて、 I C を作ることにより、大深度だけなら 1,000 戸で済む立ち退き数が 2 倍も増え、2,000 戸にもなってしまいます。立ち退きによる影響を受ける人たちが多数いるということを常に意識し、行政体としての発言が一方に偏りすぎないように強く要望いたします。